

南伊豆に今、何が起きているのか？

～ 渥美半島の風車被害から学ぶこと～

レポート／ M・M & Y・C

◆ 真実を知りたい ◆

静岡県南伊豆町に巨大な風車 17 基を建てる計画がある。

伊豆半島突端の小さな山々の尾根を削って風車が建ち並ぶ。

住民の安全は守られるのだろうか？

自然環境は大丈夫なのだろうか？

安心の確約は何ひとつなく、不安は大きくなるばかり。

「実際に風車と暮らす人々の話を聞きたい。」

我が町にやって来る予定の風車がどのようなものなのか体験したい。

私達は風車と共に暮らす町・渥美半島を目指して出発した。

2008.11.26 (水) ～11.29 (土)

4日間の行程

★ 1日目 (晴れ～夜/雨・風速 1～2 m)

A.M.10:00・・・南伊豆出発

P.M.4:00・・・豊橋市・細谷風力発電所 (GE・1,500kw)

P.M.9:30・・・田原市・久美原風力発電所 (GE・1,500kw)

★ 2日目 (曇り～夜/雨・風速 2～1.2m)

A.M.10:00・・・田原市・渥美風力発電所 (ベスタス・2,000kw)

P.M.3:00・・・田原リサイクルセンター風力発電所 (リパワー・1,980kw)

P.M.4:00・・・田原市・田原臨海風力発電所 (ベスタス・2,000kw)

P.M.7:00・・・久美原風力発電所

★ 3日目 (晴れ・風速 8～16m)

A.M.7:00・・・田原市・久美原風力発電所 (GE・1,500kw)

A.M.11:00・・・渥美風力発電所 (ベスタス・2,000kw)

P.M.3:00～P.M.8:30・・・田原臨海風力発電所 (ベスタス・2,000kw)

★ 4日目 (晴れ・風速 3.4～6 m)

A.M.10:00・・・田原臨海風力発電所並びに細谷風力発電所に於ての証言

P.M.2:00・・・帰路につく

※ _____線は南伊豆町に建設予定の機種ベスタス(デンマーク製)です。

※ 赤字で表記した発電所は、南伊豆町に建設予定の石廊崎・大瀬風力発電事業に関わる事業者が運営しています。

一日目・2008. 11. 26 (水)・晴れ

AM.10:00

南伊豆町出発。

PM.4:00

《細谷風力発電所》到着。

GE ウインドエネルギー 1,500kw・1基。

「M & D グリーン (株)」

H・99.95m

タワー・64.7m

ブレード φ70.5m

キャベツ畑が広がりどこまでも平地が続く夕景の中に、突然風車が目に飛び込んで来た。

その風車から 1 キロ以上離れているにも関わらず、夜眠れないなどの症状を訴えている“M さん”にお会いして話を伺うことができた。

この日の風速は 1~2m、南西の風。

ブレードは、今にも止まりそうな速度でゆっくり回っている。風車からの音はこの風況では聴こえない。普段も耳で捉える音はほとんどないそうだ。しかし、よく回っている日の夜などは周りが静かになると、この距離でも音がするのがわかるという。では何故、音は小さいのにこんなに苦しんでいらっしゃるのか？

.....

① Mさんの話

「音はしないのに、夜眠れない。眠りに就いても夜中 2 時か 3 時頃になると、毎晩妙な感じで目が覚めてしまう。音ではなく、頭の中、耳の奥で『グワー・グワー』と渦まくように聞こえてくる。それが気になり始めるとその時点からもう眠る事ができない。」

風車稼働後、**半年経ってから**不眠症状が出始め、最初はなぜなのか分らなかったが、**だんだんと**その響きのリズムが風車の回転と一致している事に気がついたのだと言う。

「頭の中で何かが渦巻く感覚で眠る事ができない。今でも睡眠不足の状態がずっと続いている。」結果、昼間の仕事の中に眠くなる。・・・ついに先日、日中の仕事で運転中に睡魔に襲われ、車をぶつける、という事故を起こしてしまった。

夫婦で老後をこの地で送ろうと楽しみにしていたのに、**「妻は“眠れない苦しさ”から避難する為、実家に帰ってしまい、この家に戻れずやむなく別居生活が続いている。」**

「たった1基の風車が建ったおかげで被害は甚大、生活はめちゃくちゃだ。今でも月一で事業者と話を続けている。」

Mさんは将来、この土地を切り売りしたいと思っていた。「**しかし、こんな状況の土地になってしまっては欲しがる人もいないだろう・・・**」と語ってくださった。

風車からの距離がある程度離れていても、聴こえない音(低周波音)に苦しめられている方が存在する事に驚いた。(低周波曝露による)“風車病”という病名はまだ確立されておらず、誰にも認めてもらえない。体調を崩した上、ご夫婦が一緒に暮らせない。

“たった1基の風車”で未来設計を壊され、生活は一変した……。風車が身近にやってくる現実を、いきなり初日から目の当たりにした。

PM.9:30 (風速 1 ~ 2 m)

田原市六連町に到着。

日中は晴天だったが、日が落ちてから曇り始め小雨がぱらつき始めた。

細谷の風車と同じ機種。細谷風力発電所は『豊橋市』、久美原風力発電所は六連という所にあり、『田原市』となる。離れた場所だが、事業者は同じ“M & D グリーン”が建てたものだ。まずは、久美原風車の傍まで行き状況を確認した。

《久美原風力発電所》

GE ウィンドエネルギー 1,500kw・1基

M & D グリーン (株)

H・99.95m

タワー・64.7m

ブレード φ70.5m

相変わらず 風速は1 ~ 2 m と緩やかで、ブレードはゆっくり回ったり、止まったりの繰り返し……。にもかかわらず、**タワーの中から『異音』**がする。

ウ゛〜ン という低い機械音、それと同時に イ〜〜ンゝ と頭の先を通過するような高音が、同時に体を突き抜けて行く。更に風切り音がジュワン・ジュワンと体を包み込む。



〇さん宅近くより久美原風力発電所を望む（GE 1500 kw）

そこを離れ、風車から 350m の所で被害を受けている〇さんのお宅に行き話を伺った。
そこから見る風車はデカイ。そして、先ほど間近で聴いたのと変わらない唸り音が聴こえる。

.....

② 〇さんの話

・「風切り音が『シュー・シュー!』と聴こえ続け、機械から出る『ピー〜ン』という高い音や、『ウ〜ン』という低く唸るような音など数種が連続で襲う。そして、**家の壁や床が振動し続ける。**」

「風車が建って以来、風車からの音で耳がずっと痛く、頭の後ろ・首の後ろあたりが、いつも重い。」

「寝る為にからだを横たえると、からだ全体で音と振動を受けるので、とても眠れるものではない。自宅は住める家ではなくなった。」

「今は離れたところに自費でアパートを借り、夜になると毎晩家族で避難している。」

と、稼働後からずっと続く様子を話してくださった。風車から近い事もあり、被害状況はかなりひどい。

事業者は、そのような被害を近隣に与えた事に対し、きちんと“根本的な解決”に向けて対処したのか？業者の講じた策は次の話に含まれる。

〇さんの話（つづき）

「風車が稼動してすぐに、(健康被害を含めた)この事態が発生した。この事態を何とかするよう、事業者毎週2～3回は電話をかけ続けた。」

対応は早く、測定をするという事で、ひと月の間に3回くらい業者が測定しに来て中間報告を出した。

- ・騒音＝問題なし（基準値を越えていない）
- ・低周波＝出ている（参照値を越えている）
- ・床面の振動あり

しかし、**報告は出すが詳細な測定データは全く出さない。**それでも最初のうちは避難場所として、事業者はホテルを提供した。その間に風車本体の防音工事と、本体が振動しないよう耐震用のバーを入れたという報告をもらった。

「処置をした」という事業者からの連絡でホテルから自宅へ戻る事になったが、自宅の被害状況は変わっていなかった。振動(低周波)も騒音も依然として何も変わっていない。防音工事に何の意味があったのか……。本当に工事を行ったのか？と思ったほどだ。

次の対策として、自宅に二重サッシを入れた。

多少は音が小さくなったが、やはり効果はなく、気になる音は聞こえ続け、家の振動は現在も続く。

「両親が住む部屋は二重サッシで多少は音の軽減ができたので、なんとか“我慢”をして住んでいるが、こちら側(〇さんが住む部屋)はその工事を施してもやはり住める家には戻らない。」

生活を一変させ、苦痛を与えた上に我慢までさせる。そんな巨大な人工物を建てた事に対する事業者の処置は、その場しのぎであって“根本的な解決”にはほど遠いものだった。

「事業者が測定をした後、詳細な測定データをどうしても出してくれないので、中部電力に測定を申し込んだ。中部電力も測定に来たが、やはり測定結果のデータは、公表してくれなかった。」

〇さんは最終的に、愛知県に測定を頼むことにした。

「風のほとんどない日に数時間測りに来た。」(計2回)

県の結果は、『騒音は、基準値以下』という事で処理されてしまった。

「これだけ訴え続けても何も改善されない。人として最低限の安全な生活に戻るには、この風車

を止めてもらうか、撤去してもらうしかないと思っている。」

.....

事業優先、事業ありきで進んでいく不条理な現実。健康を害し、苦痛を訴える人達の声は拡がらないように、やんわりと抑え込まれていく。一体何の為、誰の為の風車か？
建ってしまったらもう遅く、事業者も行政も他人事。**被害者の声はどこへも届かないのだと痛感した。**

夜半には、風速が落ち風車は止まる事が多かった。それでも回り出せば、騒音・低周波は家の中に入ってくる。家の中でも場所によって振動を感じる所と、感じない場所があった。
奥の廊下が振動したり、横になると畳が ゾ 〜〜と微妙に振動しているのがわかる。
部屋の奥の角、天井近くでは唸り音が溜るようだった。

小さな子供さんを持つ彼らが、これらの被害を我慢しなければならない理由は何もない。まったくもって理不尽な話だ。

二日目

2008・11・27 (木)

A.M.10:00 (風速 2 m)

《渥美風力発電所》

ベスタス・2,000kw・4基

「渥美グリーン・パワー (株)」

合資会社... (株) 九電工・(株) トーエネック・(株) 泰州・日本風力コンサルタント (株)

H・118m

タワー・78m

ブレードφ・80m (南伊豆町に建つ風車と同じ物)



渥美風力発電所、南伊豆町と同じベスタス 2000kw

伊良湖手前で 42 号線を右折、丘の向こう側に風車が見え始める。『で、でかい！！』と仰天！！今まで見た どの風車より遥かに大きい！数キロ離れていても目の前に建っているようだ。視野のパスがすっかり狂う。ブレードの直径は、天城ループ橋とちょうど同じ大きさ。あれが立ち上がった状態なのだ

な・・・と、その巨大さにたじろいだ。「白い巨大な槍」が丘全体に突き刺さっているように感じられた。

風車の建つ山へ近づく。今日は風が弱く、風車は殆ど回っていない。

平地に建つ1基の傍へ見学に行った。自分が立つ位置からは風を殆ど感じないが、上方ではブレードがゆっくり回っている。

明日は風が吹くという予報なので、本日のこの場所でのチェックはここまでにして、田原臨海公園方面・田原埠頭（トヨタ自動車工場）に建つベスタスを見に向かう。

渥美風力発電所から半島北側（259号線）を、また豊橋方面へ戻る。半島全体が平らなので北海岸の道路からも前後左右、どこを向いても必ずどこかの風車がニョキニョキ見える。

PM.3:00（風速1・2m）

トヨタ自動車工場を中心に田原臨海エコ・パーク、田原市リサイクルセンターが並び、大規模なウィンド・ファームとなっている。

《田原リサイクルセンター風力発電所》

リパワー・1,980kw・1基

「(株)グリーンエナジーたはら」

合資／田原市・日本ガイシ（株）・大成建設（株）・（株）テクノ中部・UFJ セントラルリース(株)・中部鋼鉄（株）

H・121.0m

タワー・80m

ブレード φ82.0m

田原市の中で、大きさとしては一番大きい風車。

見上げるとブレードはゆっくりだが回っている。この時の雨は小雨程度。風速は地表で1.4m。

このリサイクルセンターのリパワー1基を中心に、両脇は計12基のベスタスに囲まれている。トヨタ工場敷地内のベスタス8基は今日は風がない為、回っていないが、エコパーク（臨海公園）のベスタス4基は回っている。

このリサイクルセンターのリパワー1基は、かろうじて回っている状態でも、風車近くは、風切り音の「シュ！〜〜ワ〜ン、シュ！〜〜ワ〜ン、シュ！〜〜ワ〜ン」という大きな音が、上から落ちてくる。これだけ大きな風車なら、当然とも言えそうだが。

数百メートル離れてみても、風切り音は耳に入ってくる。“終わりのない音”にだんだんつらくなってきたので、リサイクルセンターから、エコ・パークの風車へ移動する。

PM. 4:00 (風速 1 ~ 2 · 4 m)

《田原臨海風力発電所》

ベスタス 2,000kw · 4 基

「(株)ジェイウインド田原」

合資 / トヨタ(株) · 電源開発 (株)

H · 107m

タワー · 67m

ブレード φ80m

南伊豆町にこれから建つ機種と同じ出力だが、タワーの高さが 11m 低い。11m 違うと印象は随分違う。近くで見るとどちらも『異様にでかい人工物』だが、遠くで見ると “ 頭でっかちの巨大風車 ” が乱立している印象だ。



田原臨海エコパーク内の風車 ベスタス 2000kw

臨海公園は、トヨタ自動車工場に隣接した埠頭に位置している。その公園へ行く道路は中央分離帯が幅

広くとられ、分離帯に植え込みまで施されている広めの対面通行だ。

その道沿いに2基。それも道路脇ギリギリに建っている。道路脇ギリギリに建てられているのは、「タワー部分」である。まるで「電柱感覚」だ。

タワー部分が道路沿いなものだから、当然上を見上げれば**ブレードが覆いかぶさる様に道路の真上で風を切る事になる**。そして風向はだいたい海風。

つまり、道路脇に建った風車のブレードは、殆どの確率で**道路の上に 40m 突き出して回る事になる**。広い対面道路の両面をブレードが覆う為、逃げ場がない。ブレードが シュッシュと回るその下を通らねば、公園に着かないのだ。通過しようとする真上で巨大な人工物がグルグル回る様はとても怖く、すごい威圧感だ。**セット・バックも何もあったものではない**。「我が社の風車は、こんなに近くでも安全、大丈夫！共存できます。危険はありません。道路上にそびえる風車、美しいでしょう！？」・・・と言わんばかりの建て方である。

埠頭の突きあたり右手に2基。

以前、南伊豆の風車を計画した業者は「機械の音はない。風切り音だけ」と、私に説明したが、とんでもない！イゝ〜〜〜という低い唸り音にからだを取り囲まれる。数基の風切り音は、グワッ〜〜・シュワッ〜〜と混ざって聴こえてくる。そして風切り音が放った残音、〜、〜の部分で頭上の空間を回り、まるで飛行機が飛んでいるような音となって、ゴォ〜〜〜と降り注ぐ。

“いつまでも通り過ぎていかない飛行機”が頭の上にいる。

暫くそこにいたが、だんだん頭の後ろから額の先に向かってぐらぐらしてきた。

おかしいな・・・と思っていたら、そのうち胸と背中を両面から押さえられるような圧迫感を感じた。ちょうど船酔いの時に経験する、吐く手前の感じ。「まずい・・・」と思い、そこを離れようと歩き始めると、なんだか地面から足の裏が浮き上がっているような感覚に襲われた。

以前、熱川天目で風車被害にあわれている方が「真っ直ぐに歩けない・・・」とおっしゃっていたが、その時にはどんな感覚なのか想像がつかなかった。今、この体験で初めて、ああ、これがひどくなったら確かに真っ直ぐ歩けないだろうな・・・と、とてもリアルに納得できた。

視線をブレードからそらしてもモノが大きいのと数が多いのとで、視野からはずしきれない。規則的な動きなので、無意識に目の端のどこかで常に捉えてしまう。それがよけい吐きそうな気分には拍車をかける。「これ以上は無理だな・・・」と退散の準備。また明日来る事にした。

PM.7:00 (風速 6 m)

六連町に戻る。

風がだんだん強くなってきたので、再び久美原の風車を 300m～1 km の距離、東西南北、多方面から音の聴こえ方を確認してみた。風が強くなれば騒音も比例する。ブレードが回るスピードは早くなり、風切り音も大きくなる。

逆に、風車からの距離が遠くなれば、勿論風切り音は小さくなる。

が、それでもその残音は風に乗って夜の空をぐるぐるまわり、ウゝォ〜〜ンという唸りで降りそそいでくる。機械音と思われる下から来る微妙な低音と、頭の上で聴こえる小さな高音は距離があっても知覚できる。

PM.9:00

細谷風力発電所の近隣にお住まいの N さんに、昨夜泊めて頂いた O さんのお宅で話を伺った。

.....

③ N さん（女性）の話

「風車が回るようになってから、病院通い ばっかりになってしまった。」

風車から 700m 前後の距離に住んでいるが、稼働し始めてから半年くらいで急に体調が悪くなり入院。検査の結果、心臓のまわりに水が溜っていた。二週間入院して抜いた水は 600cc。MRI やエコー、CT で検査しても原因がわからない。膠原病とも言われてあちこち回された。今でも二ヶ月に一回の病院通い。それが風車による影響なのかどうかは全く不明だが、今までとは違うリズムで体調が崩れたのは確かだという。

「風車が回り始めてから すぐに頭と耳が痛くなり、それは今でも続いている。風車が少しでも回ると耳の奥が痛くなる。家と風車から遠く離れるとその症状は和らぎ、からだは楽になる。」

更に夜になると、**「航空灯の光が反射して眠れない。」**

自宅の 2 階に入り込んだ光が壁に反射して眠りにつけず、**現在 2 階には住めなくなった。**

.....

もともとが完全な健康体でない人にとって、風車からの音や低周波による影響は、健康な人より敏感に感じ、数倍大きな苦痛となるのではないだろうか。また、以前までの病状が悪化する事も考えられるのではないのか？

N さんに話を伺ったのは、久美原風車まで 350m の O さんのお宅だったが、

いろいろなお話しをお聞きしながら 1 時間半くらい経った頃だろうか、急に N さんが、

「あ、耳の奥がすごく痛くなってきた。さっきからキ〜〜ンとするなと思っていただけで、ごめん、痛くてちょっと耐えられない。申し訳ないけど、ここ (O さん宅の低周波の状況) はきついので帰りますね。」と、引き上げていかれた。

二重サッシに厚手のカーテンをひいていたのだが、毎日悩まされ続けている彼女にとっては、殆ど役に立たないようだった。

ガラス窓を叩きつける風や雨の音が一時すごかったが、二重サッシなので、多少は軽減されており、風車からの音も風雨の音に消されてしまっていた。

・・・にも関わらず耳が痛くなるのは、やはり可聴音だけではない成分(低周波音)があり、私のような一時的な体験と、低周波を浴び続けている方の体感とでは、また違いがあるのかもしれない。

お見送りする為に外に出たら雨はまだ随分降っており、風車は勢いよく回っていた。

三日目 2008・11・28 (金)

晴れているが雲の流れが速い。一日中快晴だった。

AM.7:00～AM.9:00 (風速 8 m)

久美原風車を再び体感。

風の強い音と共に、回転の速いブレードの規則的な音が聞こえてくる。

この風速下での風車の騒音は相当うるさい。しかし、これが風車としては一番安定している状態だという。先に表現した『上空をいつまでたっても去っていかない飛行機』は、『低空で飛び続けるセスナ機』となっている。

部屋の中において、風のある時と無い時を比べて気がついた事は、**からだに受けるなんとも言えない圧迫感**は、**風が強くて風車がガンガン回っている時よりも、ゆ〜っくり回っている時の方がきついという事だ。**

AM.11:00 (風速 9 m)

昨日も訪れた《渥美風力発電所》(ベスタス・2,000kw 4基・南伊豆町に建つ風車と同じ)へ到着。

今日は丘の上に建つ3基の方まで上って行く事ができた。風が強いので、ブレードがすごい速さで回っている。しかし、調子よく回っているのは2基。あとの2基は僅かに回ってみたり止まってみたり。何故回っていないのだろうか？点検だろうか？

頂上近くの風車まで行って息をのんだ！**太陽の光を受けて建つ風車が落とすその『影』の大きさ！**晴れていれば影はできる。巨大な風車は影も巨大だ。その巨大な影が、丘いっぱいグルン・グルンと回る異様な景色。光がさんさんと降り注ぐ草原地で、常に規則的に目線のどこかを横切っていく“黒い影”。岩や立木など、少しでも**凹凸があるとそこを斬りつけるように影が走り**、つい目を奪われてしまう。**起伏のある地面では、ブレードの影はぐんにやり曲がって回る。**

そして午後の影はどんどん伸びて行く。視線をそらしても視界に入るので、目まで回ってきた。きっと**月夜の晩にも、昼同様の事が起きるのだろう。**からだは昨日のように辛くなってきたので、丘を下る事にした。

昨日、様子を見に行った集落(風車から 800m～1 km)へ足を向ける。

この集落では、騒音に関しては“聴こえても気にならない人”、“騒音には気付かない人”、“我慢できるという人”、など様々だ。

しかし以前、**1 km と少し離れた一画でも、やはり苦情や問題が上がったという。**

現在は何故か、何らかの事情により騒ぎは沈下し、住民は口を閉ざしてしまった、との話を耳にした。



渥美風力発電所、南伊豆町と同じベスタス 2000kw

PM.3:00

259号線をトヨタ自動車工場に向かって進む。海岸線沿い、宇津江付近だろうか。海を見ようと道路をはずれて海岸に出た。風が強く、湾内遠くまで波が立っている。

左は半島先端、最西の渥美風車群、右は田原市最東にある臨海公園の田原臨海風車群、その地点からそれぞれ15kmは離れているのに、風車群を一望できる。

海を見ながら半島に広がる景色は『工業地帯』という印象。どこを向いても風車ばかりで、まさに『風車半島』・・・。

のどかだったであろう美しい畑の続く風景は、景観も考えずにぼこぼこ建てられた送電塔と、あちらこちらに張られた送電線であやとりのようにになっている。

静岡県も、『風車半島・伊豆半島』と目標を立てているらしいが、伊豆半島の人々は本当にこのような半島になる事を望んでいるのだろうか？

PM.5:30 (風速 16m)

《田原臨海風力発電所》

ベスタス 2,000kw 11 基

ベスタス 1,980kw 1 基

「(株)ジェイウインド田原」

合資／トヨタ(株)・電源開発(株)(Jパワー)



R259 から田原臨海風力発電所を望む (ベスタス 1980kw,2000 kw)

この2社合資で行っている風力発電所は、エコ・パークに4基、トヨタ自動車敷地内に7基。同じ敷地内にある、もう1基は「(株)ウインドテック田原」が行っている。

道路を挟んだ向こう側の分譲住宅地は近いところでも風車から1kmは離れている。

この状況ならば、以前 事業者が私に言ったように、「問題や苦痛を感じている方はいない」かもしれないと思っていたのだが、地元の店や地元の方々の話を伺って驚いた。

④ 田原臨海風力発電所近隣の方々の話

「この地域で風車による被害が全くないとは、とんでもない！ただ、言えないだけだ。」

おおやけに口を開く事ができなければ問題を抱えている人がいても、“問題なし”と事業者や自治体に片付けられてしまうという事だ。しかし、問題はあった。

「喉まで出かかっているが、言えない。」

「この町は『T社に 食わせてもらっている』という意識がある。」

個人宅では毎年、盆・正月に頂きものをする。しかし受けとれば、T社に 関する事には口をつぐむしかないし、地区でみんなに配られるものを受け取らない訳にはいかない。「問題があっても、それを言えるような状況下に置かれていない。**我慢をするしかない。**」

転勤族もいる。「そういう家族は数年で引っ越すので、敢えて口を開くことはしない。」

「この距離でも風車からの騒音・低周波で眠れない・耳が痛い・・・など、いろいろな症状が出ている人はいる。地元住民で耐えられなくなった人達は、家を出て遠くへ移動してしまった。」

「社員の中にも持ち家の人はいるが、住めなくて家を捨てて移動した人もいる。」

被害に遭われている人々が移動して、そこに人がいなくなれば**「被害はない(事業者の発言)」**という事なのだろう。



田原臨海風力発電所

PM. 7:00 (風速 16 m)

《田原臨海風力発電所》

《田原風力発電所》

ベスタス・2,000kw・11基

ベスタス・1,980kw・1基

(2,000kw は、南伊豆町に建つ風車と同じ出力だが、タワーの高さが 11m 低い。)



田原臨海エコパーク内の風車 ベスタス 2000kw

風速計は 14.5m~16m の間をいったりきたりしている。車から降りると、台風のように吹きつける風に身体ごと飛ばされそうだった。瞬間的に 18m まで上がる事もあった。暗闇に白いタワーが浮かび上がり、上ではブレードが吠えている。

夜の風車は更に大きく感じられ、驚異的な圧迫感がある。工業地帯の中にあつてさえ、強烈なインパクトを与えるこの巨大な物体が、静かな夜の山々と星空だけを仰ぐ南伊豆の民家の間近に十何基も建ったら・・・と想像してしまった。一体、どれだけの苦痛を強いられるのか恐怖である。

風車から 400m 離れた場所でさえ、たくさんの風車の合成音に包まれていた。

風車の下で一晩 車中泊して、低周波の実情を体験するつもりで来ていたのが、この騒音には気がめいってしまった。

夜 8:00 頃、お話を聞かせてくださるという S さんという方から携帯電話に連絡があり、やっとその場から逃げ出す決心がついた。

PM. 9:00

S さんのお宅は、風車からかなり離れたところに在る。

平成 16 年には、そこも風力発電所の候補地にあがっていた。そして“M社”が事前説明をしに自治会、並びに土地改良区とそれぞれにやって来た。その時に土地改良区で行われた説明会の内容を話して下さった。

.....

⑤ S さんの話

「その頃、私は土地改良区の役員だったので、事前説明で立ち合う事になった。

風車そのものについては、平成 16 年のその時点ではよくわからなかった。」

しかし、事業者の説明する内容がおかしい事に気付いた。

“M社”は、風力発電事業を説明する話の中に、この町が困っている“産廃不法投棄問題”をあげ、「風車が建てば不法投棄は止まる。」と言ってきた。どこに根拠があるのか S さんが聞くと、「千葉県のある地域で、風力発電所ができてから不法投棄が止まった。」と事業者は言った。

・ ・ それはおかしいと S さんは思ったそうだ。

「私は産廃問題にずっと関わってきたので知っているのだが、あれは産廃 G メンの働きや、知事が変わったりした等、他の要因で止まったのであって、風力発電事業によって止まったのではない。千葉県の風車建設前に、産廃の不法投棄は既に止まっていた。風力発電所ができたのは、それから随分後の事。他にも『風車が建てば観光地になる』とか、地元が欲しがりそうな話を、さも簡単に手に入るかのように言った」

「次に、環境影響調査をやるにあたって、この辺は渡り鳥が多いし、バードストライクの心配もあるので、こちらから、この辺りの野鳥について詳しい“O 先生”を推薦した。すると事業者は、『その人は、色がついているからダメだ。我々の方できちんとやる。』と言い出した。」

しかし、この地域で野鳥のアセスといったら彼以外に適任者はいない。現地の人達は皆、そういう見解を持っている。なのに、それが駄目だというのはおかしな話ではないか。

業者は、最初から『建設ありき』『建設が前提』で話を持ってきているのではないのか？」

S さんは風車に関して疑問に思った事がもうひとつあった。

「当時はまだ、風車から出る騒音や低周波被害の事は何も知られていなかった。

市にも、現在のような『民家から半径 300m 離す』というガイドラインは無かった。それなのに、事業者の方から『風車を 300m 離す』と言ってきた。『300m 以内に民家がある場合は、同意を得てから進める。』と言う。何故 300m なのだ？ 300m 離すという事は、そこに何か問題があるからでは

ないのか？」と尋ねると、『それはない。自主規制だ。』と業者は言った。」

それもおかしいではないか。安全なものなら距離を離す必要はないし、民家のすぐ横でも建てたらよい。“危険な何か”がそこにあるから、自主規制をするのではないのか？土地改良区役員として Sさんは、「風車を建てるにあたって300m以内の民家の同意を得るなら、民家だけでなく、300m以内全ての土地の権利者の同意書を揃えてもらわないと、風車建設に賛成することはできない」と伝えた。

300mの意味も明確に伝えぬうちに同意を取り、風車を建てるなどというのは、それこそ業者の『**建設ありき**』の体制が見え隠れする。更に、自治会に年間・1基40万円×基数分の協力金を毎年出すという。「金を渡すという事は、何かの我慢料ではないのか？」金をもらってしまったら、建設後に何か問題が起こったとしても、もう文句は言えないという事ではないのか？

「その時は、“風車はよいもの”と思っていたので、風車自体がおかしいとは思わなかった。勿論、自治会役員の中には事業者の説明について、疑問を持たなかった者もいる。」

「しかし私は、事業の説明内容や進め方、やり方がすごくおかしいと感じた。」

「事業者と何度かやり合っているうちに、そこに風車を建設する話はなくなった。」

.....

Sさんのように、地域の代表の方々が影に隠れている嘘に気づき、目の前の欲や誘惑、巧みな言葉に騙されず、きちんとその後を深く考え、事業者と対峙しなければ、事業者のやりたいように進められてしまう。地域の代表となる人間は、人々を守る義務があるはずである。事業者の説明を鵜呑みにせず、その先に起こりうるリスクを考えなければいけない。行政や地区の代表が迂濶であれば、あとは住民達が勇気と意志を強く持つしかない。“建ってしまったら、もう遅い”のだ。

四日目（最終日）2008・11・29（土）晴れ

AM. 10:00

“M 社”が建てた 細谷風力発電所付近では、まだまだたくさんの被害者の方々がいらっしゃるようだ。その方々のお話を伺うことができた。

.....

⑥ Mさん（女性）の話（風車から約 700mの場所に住んでいる。）

「なんと表現したらいいでしょうか。胸を前後からグーッと圧迫されている感覚で、常に苦しいんです。」

「医者に行っても異常がなく、更年期障害ではないかと言われてしまう。風車が稼動してからその症状は始まり、良くなる事はなく常に身体が重い。しかし、風車から遠く離れた地に出かけると、その間だけは胸の圧迫感が弱まり、苦しい感覚から解放される。誰にも理解してもらえず、誰にも低周波による被害とも認めてもらえない。」

.....

⑦ Aさんの話（風車から 600m の位置に居住）

「とにかく、夜寝ても夜中の 2 時～3 時頃になると毎晩、起きてしまう。寝た気がせず、常に睡眠不足。寝覚めが悪く、頭が重い。」

.....

M さん、A さんのように、「眠れない。寝ても夜中に起こされてしまう・・・」という苦しみは、被害にあわれている皆さんが抱えている問題のようだ。更に驚いた事に、風車から自宅まで 3 km も離れているにも関わらず、低周波被害を訴える方がいらっしまった。

.....

⑧ Oさんの話 住まいは風車から 3 km 離れている。（前出のO氏とは別の方）

「3 km も離れているから、大丈夫だと思っていた。・・・まさか自分が・・・と思ったよ。風車からの騒音は聴こえるが、夜中かすかに聴こえる程度なので、最初は何故起こされるのかわからなかった。低周波の被害は 2 km 位までと聞いていたのだが・・・。しかし、現に私は 3 km 離れていても苦しんでいる。今でも眠れない日々は続いている。」

「風車稼動後すぐに症状が出た。今までとは違う体の感覚で、夜眠れなくなった。寝ついても、夜中 2 時～3 時頃起こされてしまう。そのような時間に起こされるものだから、毎日寝覚

めが非常に悪い。」

.....

このような辛い生活を強いられている方々が、実はたくさんいらっしやった。口を開く事の出来る方々はまだよい方で、

- ・ 周囲からの圧力で口を開くことができない方
- ・ 症状は出ているが確信を持てるほどでなく、言いづらい方
- ・ 『反対派』に押しやられるのが怖くて我慢を続ける方・・・等々、様々な方々がいらっしやるようだ。

また、田原臨海風力発電所の周囲でこのような事も起こったという。

.....

⑧ Oさんの話

「13 基の風車が建っているT社工場周辺から、海上沖2 kmに『姫島』という無人島がある。そこへ友人達と船で遊びに行った。島に渡ってしばらく遊び、浜に寝転がっていた。暫くして、さて起き上がろうとすると、身体が全く言う事をきかない。自分の意志では起き上がれない状態になっており、友人が手を引っ張って助け起こしてくれた。」

「起き上がった時には、頭の後ろが殴られた様にずっしりと重かった。圧迫感やら気持ちが悪いやらで、その島にいる事はもうできなかった。友人は身体を横たえていなかったせいか、私のようなひどい症状に陥る事はなかった。」

「あの付近の魚が、いなくなるわけだよ・・・」Oさんはポツリとそう言われた。

.....

PM.2:00

お世話になった方々に挨拶を済ませ、いよいよ帰路についた。

被害を受けている方々にお話を伺いながら、「今更反対しても、もう遅い」とあきらめてしまったら南伊豆の町は壊れていくのだ、と痛感した。

事業者は地域住民に「“被害” が起きたら保証します」と、簡単に約束する。

しかし 実際に被害が起こっても、どこの場所のどの業者も、その住民の“被害” をなかなか認めようとしない。

事業者達が言う「保証する」とは、運転を止めずに事業を続行する為の一時的な策でしかなく、何か問題が起こったとしても、応急処置をその都度行なうだけなのだ。

“風車の被害”が公害として認められるまでには何年もかかるだろう。

事業者達は「他社の風車に比べ、当社の機種は静かです。」と南伊豆だけでなく、どの計画地でも同じ事を言っていた。今回話を聞かせていただいた皆さんも、

「うち等の所に建てる時も『ウチの会社の風車は静かだ』と言われた。ところがどうだ、蓋を開けてみりゃ、騒音や低周波で悩まされ続けている！」と、声を揃えておっしゃっていた。事業者は風車と住民の共存を考えているわけではない。利益が優先なのだ。風車が建ってしまえば、何か問題が起こっても騒がれないギリギリの処置しか行わず、根本的な解決には向かわない。

しかし風車が建つ前ならば、建設途中であろうと、住民の安全が確保できない限り、住民の不安の声を無視して工事を押し進める事はできないはずだ。風車が建ってしまって、大勢の被害者が出る前に何かできる手だてはないものか。

様々な思いで いっぱいになりながら、PM.9:00 頃、南伊豆町に帰ってきた。

付記

今回の旅で“風車”とは、どのようなものなのかを、あらゆる天候・風況・距離・時間帯で体験した。そして風車が人にどんな悪影響を与えるかを、実際に苦しみを抱えた大勢の方々とお会いして、この目と耳で確かめる事もできた。

大きな金が動く風力発電施設建設は、事業進行も強引になりがちだ。「風車は未来のため、世界のため」と事業者は大義名分を振りかざす。地域住民を無視した、一方的で性急な風車建設が、多くの人々を苦しめている。風車建設の為にはあらゆる手を使って、住民の“不安の声”を抑え込み、いい加減なアセスメントを行い、建設を押し進める。その結果が、日本各地で健康被害を多発させ、環境破壊に輪をかけているのだ。

では何故、『環境に良いもの』であるはずの風車が『脅威的な危険物』と化してしまうだろう？・・・それは、未だ規制する法が整備されていない“自然エネルギー導入”という国策に、事業者が便乗し傍若無人に建設を行うからだ。健康被害を出すような事業を行っても、風車を規制する法律がない為に、罰せられる心配がないからである。

以前、南伊豆町に説明に来た事業者達に、他県で風車被害に遭われ苦しんでいる方々の報道や記事について質問したことがある。ある事業者は、

「一部の住民にスポットを当てた映像が、大事のように流れてしまっただけ(M社)」と答えた。

“一部”とは何事だろうか。仮に少人数だとしても、風車の被害者が実際におり、悩み苦しんでいる事が最も重要な問題ではないか。また、ある事業者は

「わが社では、被害や問題を一切出していない。(J社)」と答えた。被害の声をあげられない人々がいるのを知っていても、公にならなければ「被害は出ていない」と胸を張る。

問題を正面から解決せずに、何度も同じ過ちを繰り返す事業姿勢。取り締まる法が無い事を盾に、「法は侵していない」と公言し、彼らは今もなお日本各地で風車建設を強引に進めている。

行政の責任も然りだ。どの町も、風力発電事業の計画内容を大々的に、きちんと住民に伝えることをしない。住民に騒がれないよう小さな知らせのみに留め、既成事実を作っていく。そんな小細工をしていくうちに、町行政はいつの間にか事業者の手先のように、住民の声を抑え込む側となる。もはや彼らは自分達を守る事で精一杯となり、住民は町にさえ守ってもらえなくなる・・・。

保身にまわる町、さらには県・国行政の対応が被害を拡大させている。

風力発電事業は私達の税金で成り立っている。しかし、そんな態度で対応する町や県や国に、私達は税金を払わなければならないのか。私達は自分自身を苦しめる為にお金を払うようなものではないか。

苦しめられるのは、もちろん大人だけではない。これから育っていく地域の子供達にも危険は及ぶ。「もう建つのだ、反対してももう遅い」と、私たちがあきらめることは事業者の思うツボだ。目に見えない圧力や策略に屈したら、大事な子供達の健康さえ守ることはできない。

私達が今回の旅で、この目で確かめた事や知りえた事実は、建設を推進めたい事業者や、受け入れを許可してしまった町行政からすれば、知られたくない事実ばかりだろう。もしかしたら、この記録はそんな彼らに「一部の出来事に焦点を当てた偏見報告」、「反対したいが為の大袈裟な表現」あるいは、「小さな事を大事のように吹聴するホラ吹き」と片付けられてしまうかもしれない。

しかし、私はこう思うのだ。“風力発電事業”に対して 大きな疑問を持ったならば、「危惧が払拭できない」、「事業に納得できない」、「身の安全が確実でない」と、いろいろな観点から事業者や町、そして県や国行政に質問・意見を投げかけていくことが大事だと。

もし建ってしまったら、様々な被害が起こる可能性は大きく、そして被害が起こったその時から、住民と風車の長い闘いが待っている。

大人しく我慢して、つけいられた町には、いずれまた“新しい何か”がやって来るかもしれない。ただやみくもに「自然エネルギーだ」「未来エコだ」と流行りのような吹聴に、私たちは踊らされるのではなく、一人一人のしっかりした意識で、正しいエコロジーの姿に変えていくべきではないだろうか。

レポート／ M・M & Y・C